

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Risk of Adverse Obstetric Outcomes in Japanese Women With Systemic Lupus Erythematosus: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 全身性エリテマトーデス(SLE)合併妊娠における産科合併症のリスク

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLoS One

年: 2020 月: 5 巻: 15(5) 頁: e0233883

筆頭著者名: 村田強志

所属UC名: 福島UC

目的: 全身性エリテマトーデス(SLE)は代表的な自己免疫性疾患ですが、分娩週数や出生体重をはじめ、母児の健康に影響を与える可能性が報告されています。今回、エコチル調査データを用いて、SLE患者の妊娠における早産、低出生体重児/子宮内胎児発育不全児出生、前期破水、妊娠高血圧症のリスクについて調査しました。

方法: SLE患者の妊娠における37週未満の早産、34週未満の早産、2500g未満の低出生体重児、1500g未満の低出生体重児、子宮内胎児発育不全児、早産期の前期破水、妊娠高血圧症のリスクを、年齢の他、社会・経済的要因で補正した解析により検証しました。

結果: SLE患者の妊娠においては、37週未満の早産、34週未満の早産、2500g未満の低出生体重児、1500g未満の低出生体重児、子宮内胎児発育不全児、早産期の前期破水のリスクが上昇しました。一方、妊娠高血圧症のリスクの上昇は認めませんでした。

考察: (研究の限界を含める) 今回我々は、エコチル調査データを用いて、SLE患者の妊娠における妊娠中の合併症が起こるリスクを検討しました。SLE患者の妊娠はいくつかの妊娠中の合併症と関連があるため、妊娠前の治療、病勢のコントロールを含め、十分なカウンセリングおよび合併症に注意した妊娠管理が重要であると考えられます。

結論: SLE患者の妊娠において、早産、低出生体重児、子宮内胎児発育不全児、早産期の前期破水のリスクが増加しました。